

四姑娘山は四川省アバ藏族羌族自治州小金県に在りますが、この小金県は林檎の産地として有名です。栽培の歴史は1959年に文川流域から移植した林檎の苗160株に始まり、1970年代の全国品評会で何度も一位や二位に選ばれて、林檎の産地として有名になったそうです。四姑娘山下流の標高2400m前後の畑で、9月末から10月中旬に掛けて本格的に林檎が収穫されます。種類は金冠(アメリカのゴールデンデリシャス)と紅富士(日本のフジ)がほとんどで、金冠の方が先に収穫が始まり紅富士は後になります。

収穫の時期になると大きなトラックがやって来て、農家は林檎を詰めた20kg入りの袋を積み込みます。林檎の渡し価格は金冠の方が安く、凡そ0.5元(10円位)/kgと安いのですが、大都市での小売価格はだいたい10元(200円位)/kgになりま



小金県「金冠(ゴールデンデリシャス)」種の林檎

す。紅富士の価格は金冠の約2倍です。大都市の大手スーパーが時々普段の半値で青果物をセールする事が有り、どうしてこんなに安くなるのだろうと思っていましたが、産地から直接仕入れて自分で運べば簡単に出来るようです。裏を返せば当地の流通システムは合理化の余地が大きいと言えるようです。

小金の林檎はほとんど農薬を使ったり袋掛けしませんので、写真を見てお判りの通り表皮が綺麗ではありません。そのため大都市の大手スーパーではあまり売られず、団地の傍に在る青果市場のような小さな店で売られています。金冠の方は花摘みや摘果等^注の手を掛けなくてもそこそこに形良く美味しい実になりますが、紅富士の方はそうは行きません。

私は日本では富士の系統の林檎に慣れていたので、当地で住むようになってからも、もっぱら富士の系統の林檎を食べていました。それまで日本

や当地で食べた事の有るゴールデンデリシャスや金冠は、歯触りがモソツとしていたり甘みに爽やかさが欠けていたりしたからです。やがて3~4年前から林檎の価格が値上がりし始め、形良く美味しい紅富士はほとんど大都市へ高値で出荷されてしまい、地元の市場にあまり出回らなくなりました。地元の市場にもっぱら出回る紅富士は小さかったり虫食いの孔が有ったり甘みが少なく不味いため、

仕方なく私は成都へ出掛けた時に富士の系統の林檎1箱10数kgを買って帰るようになりました。

しかしこの頃、小金で偶々口にした金冠の歯触りがサクサクしていて甘みも爽やかで甘酸っぱく紅富士よりも美味しかったため、金冠を見直しました。その後の調べで、金冠は木で適度に熟して摘み取った後高々1週間以内がこのように美味しい事

が判りました(紅富士はサクサクした歯触りや爽やかな甘みが長続きするため大都市で流通させるのに適しているようです)。それ以来、収穫の時期になると、朝採りの美味しい金冠を小金や丹巴(丹巴でも金冠や紅富士を作っています)の市場で探して買い求めるようにしています。

■注：林檎は開花直前から開花時期に優位な花を残す「花摘み」と、結実後30日位に実を間引く「摘果」の作業が必要で、虫除けのため果実に袋掛けする場合も有ります。

●大川さんのホームページはこちら

<http://rgyalmorong.info/index.htm>

<http://rgyalmorong.info/scholaweb/conts.htm>

▶お知らせ：女王谷のHP

(<http://rgyalmorong.info/>)に、当地の風情を紹介するサンプルビデオ(MP4形式8MB前後)1分余り×15本を追加しました。日本語HPに入って頂いて、先頭頁の左下に有る、「風情のあるビデオ」でご覧になれます。

(<http://rgyalmorong.info/scholaweb/queenvideo-j.htm>)